

第8回 G20 首席農業研究者会議 (MACS) (2019年、日本)

コミュニケ (仮訳)

1. 我々G20 メンバーの首席農業研究者は、招待国及び国際機関からの参加者と共に、日本国・東京にて2019年4月25日及び26日に会合を行った¹。我々は、議論の中で、及びこれまでの会合の結果に基づいて、世界の食料生産を進展させていく基礎として、科学に基づく意思決定を継続して唱道することの重要性を認識した。科学技術は、世界の食料システムが人口増加や環境変化という課題に対応できるよう確保するために決定的に重要な役割を果たす。我々は、研究とイノベーションが、農業・食品分野における生産性の持続可能な向上のために決定的に重要であり、農業者の広範な問題に解決策を提示する上で不可欠なものであると認識している。G20 メンバーの首席農業研究者はこのために、そして適切な場合には協力的なアプローチがとられるよう確保する上で、主要な役割を担う。
2. 我々は東京で、農業分野における世界的な研究の優先事項について、またG20 メンバー間及び関係者との連携の円滑化の方法について、さらに2019年5月11日及び12日に日本国・新潟で開催されるG20 農業大臣会合の議論を、特に農業・食品分野の持続可能性に向けたイノベーションや、世界的な課題に取り組むための協力及び知識の共有に関して、どのように支援することができるかについて議論を行った。我々は、新潟の会合で提起される科学的及び戦略的な課題に関し、農業大臣に対し引き続き助言を行うことを楽しみにしている。
3. 我々は、革新的な農業研究が経済及び社会の発展に果たす動的な役割について、包括的な視点を提供する基調講演を聞いた。その後、越境性植物病害虫²、持続可能な農業のための気候変動対応技術及び農法の現場導入を推進するための社会実験的アプローチ³、過去のG20 首席農業研究者会議 (MACS-G20) での議論及び過去のMACS-G20 から生じたイニシアチブに関するストックテーキングの3つの議題に主に焦点を当てて議論を行った。
4. 我々は、越境性植物病害虫が、食料安全保障と環境に対する深刻な脅威となってお

¹ 参加者は、G20 メンバー (アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、欧州連合、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、日本、メキシコ、韓国、ロシア連邦、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ、英国、米国)、招待国 (オランダ、スペイン)、国際機関 (CABI、CIAT、CIMMYT、CGIAR、IFPRI、IPPC、FAO、GRA、世界銀行) の代表者を含む。

² 病害虫とは、国際植物防疫条約 (IPPC) の定義に基づき、「植物、動物又は病原体のあらゆる種、ストレイン又はバイオタイプであって、植物又は植物生産物に有害なもの」を意味する。

³ 提案された「社会実験的アプローチ」のコンセプトは、「対象の地域と期間を限定し、自然科学と社会科学の連携の下、支援施策・措置を組み合わせることで技術を導入する実験的なアプローチ」である。

り、変化する気候条件や人と商品のグローバルな移動によって悪化している可能性があることを認識する。我々は、自らの研究機関が、途上国を含む国際連携を通じて効果的な対策を講じることの重要性を認識する。

5. このため、我々は、G20 メンバー及び招待者の経験や植物病害虫の発生及び管理に関する最新情報を共有するとともに、重要な植物病害虫への効果的な対策を開発する助けとなる国際的な研究連携を促進するために、本年、国際ワークショップを開催するという日本の提案を支持する。これには、診断技術、疫学、モニタリング技術、越境防止措置、及び予防や防除のための措置等が含まれる。
6. 我々は、また、病害虫診断の研究所、研究機関及び大学が相互間のネットワークを構築するとともに、これらのネットワーク内及びその他の関係者との自発的な交流を促進することを奨励する。関心を持つG20 メンバーは、国際的な共同研究事業の実施を含む研究協力のために、その対象となる主な越境性植物病害虫を定めることができる。我々は、2020 年を国際植物防疫年とする国連の決議の採択を歓迎するとともに、G20 の農業大臣に対し、越境性植物病害虫に関する研究協力を促進し、それによって持続的な食料生産に貢献するため、上記の活動を支持することを提言する。
7. 我々は、世界的に実施されれば、越境性植物病害虫のまん延を最小限に抑えるための努力を支え、特定された課題に対して迅速な対応をとる仕組みを提供する技術的な解決策として、電子植物検疫証明 (ePhyto) の重要性を認識する。我々は、ePhyto の実施において、国際植物防疫条約 (IPPC) を支持し、この重要な IPPC のイニシアチブに参加することを促す。
8. 我々は、農業分野が、変化する気象条件や変わりやすい気象状況の影響を特に受けやすい一方で、温室効果ガス (GHG) の排出源かつ吸収源であることを認識する。我々は、革新的な農業技術及び農法の開発と実践は、持続可能な食料生産、気候変動に対する強靱性、土壌炭素貯留を支え、農業分野における GHG を削減し得るという見解を共有する。この点において、我々は、この課題に関する国際研究及び官民連携を促進するイニシアチブを歓迎する。
9. このため、我々は持続可能な農業のための気候変動対応技術・農法の開発と導入・拡大に関する G20 諸国及び招待者の経験や最新情報を共有し、研究連携を促進するために本年ワークショップを開催するという日本の提案を支持する。これには、気候変動のモニタリング、影響評価、新たな植物の品種の開発、適応・緩和のための管理方法、GHG 排出の削減及び炭素貯留の強化が含まれ得る。

- 1 0. 関心を持つ G20 メンバーは、導入・拡大すべき持続可能な、気候変動の適応及び又は緩和の技術及び農法を定め、これらの技術の導入に関心を有する国との間で研究連携を強化することができる。この連携には、農業生態系リビング・ラボ (ALL)⁴や気候変動対応型村落⁵、及び G20 メンバーにより特定され得る分野横断的なアプローチ (データ管理を含む) 等の、社会実験的アプローチを用いた現場での実証事業の実施が含まれ得る。我々は、G20 の農業大臣に対し、持続可能な農業のための気候変動対応技術・農法の導入・拡大に向けた研究連携を強化するこれらの自発的な活動を支持することを提言する。
- 1 1. 我々は、越境性植物病害虫への対応及び持続可能な農業のための気候変動対応技術・農法の導入・拡大のために、関係する既存の国際的及び地域的な活動及びネットワークとの調整及び連携を強化することの重要性を認識する。
- 1 2. 我々は、日本、アルゼンチン並びに作業部会及びイニシアチブの主導国が作成した、MACS-G20 から生じた活動のストックテーキングに関する報告に留意する。我々は、このストックテーキングの取組を継続することの重要性を認識する。
- 1 3. 我々は、MACS から生じる作業部会及びイニシアチブのための指針を作るための、豪州と米国が共同議長を務めるタスクフォースを決定した。このタスクフォースは、2020 年に開催される MACS で精査し、承認するために、2020 年の MACS の 2 か月前に、指針の案を MACS の各国代表に提出することを計画している。この指針は、承認を得た後、MACS の委任事項に盛り込まれ得る。
- 1 4. 我々は、G20 の議長国が引き継がれる中で、MACS の関係者が、G20 メンバーのために、関連する文書、イベント、写真集、連絡先を把握できるように支援するために 2017 年にドイツが立ち上げた MACS-G20 のウェブサイトの管理及び更新を、日本が議長国を務める間行っていることを認識する。また、このウェブサイトは、MACS-G20 から生じる、関心を持つ G20 メンバーにより進行中の活動に関する情報へのアクセスを提供する。
- 1 5. 我々は、フランス及びロシアが主導する持続可能な土壌管理に関する作業部会及び中国が主導する農業技術共有 (ATS) に関する作業部会が実施中の自発的な取組を認識する。また、我々はドイツが主導する食品ロス・廃棄の削減に関する協働の継続

⁴ 「農業生態系リビング・ラボ (ALL)」とは、「新規及び既存の農法及び技術の効果を改善し早期の採用を図るため、実際の環境において農業者、科学者及びその他の関心を持つパートナーがこれらの農法・技術の共同設計、モニタリング、評価に関与する学際的アプローチ」と定義される。

⁵ 気候変動対応型村落 (CRV) とは、気候変動の被害に対応し、迅速な回復を確保することによって、気候変動に関連する様々なくく乱に対応する体制の能力を高める、適応及び緩和の農業慣行の実施を含む、気候変動に強靱な農業が実践されている村落をいう。

的な取組を支持し、ドイツと他の関係者及びメンバーとの協力により生じた活動に関する報告を歓迎する。さらに、我々は、英国が遺伝的多様性に関する国際的なネットワークを調べる自発的な取組を認識する。

16. 我々は、カナダ及び米国が主導する農業生態系リビング・ラボ（ALL）に関する作業部会が、第8回 MACS-G20 に提出した、ALL アプローチの活用の現状や参加国における優良事例を要約したエグゼクティブ・レポートを歓迎する。我々は ALL の実施が、持続可能な農業のための新たな革新的な農法と技術の導入を加速し拡大することに資するものであると認識する。

17. 我々は、2020 年にサウジアラビアが開催する次回の MACS-G20 を楽しみにしている。